

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

討議年月日：令和 8年 3月 6日

公表：令和 8年 3月28日

事業所名 アシスト1

		チェック項目	はい	いいえ	どちらでもない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	0	0	法律上、部屋の広さはオッケーだが、室内でボール遊びなどができるだけの広さはない。	部屋が複数あるため、お子さんの状況を見て部屋を分けてみる事ができています。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	0	0	送迎に行くスタッフが多い時に、フロアが手薄になる時がある。法律上、スタッフは足りているが、重度の子が多かったり、やりたいことが多いとスタッフが足りない。	10月より理学療法士が配置できた。今後は少しずつ専門職員実地加算への支援を取り組んでいきたい。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	0	1	建物が2階であるため、肢体不自由児や車椅子への対応が課題だと思ふ。部屋が2階。防音室へ入るところには段差がある	建物が2階のため、バリアフリー化していない。お子さんのいる部屋は視覚化して分かりやすくしている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	0	0	部屋は複数あるため、利用者のやりたいことに合わせて、部屋を分けている	感染対策にも気を付けて、対応を行っている。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4	0	2	スタッフの意見を取り入れている	お子さんの状況に合わせて、個別対応を別室で行っている。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4	0	2	改善できることは改善している。	ケース会議等でスタッフ全員で話し合いながら、支援方法を考えている。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	0	打ち合わせや会議で話し合っている仕事の効率化を考えてAIを活用している。	保護者の意見が合った時には、その都度、全スタッフに周知をして、改善に努めている。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	2	1	外部評価体制が構築できていない。	改善できることは改善を行っている。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	0	0	社内研修を行なっている月に一度、研修会を行っている。	現在の時点で、外部評価は行っていない。今後検討をしていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0	0	ホームページ、すてっぷサポートで公表している。	月に1回研修の機会を作り、勉強を行っている。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0	0	現在、児発の利用者がいない。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6	0	0	会議などで意見交換をしている現在、児発の利用者がいない	懇談を行い保護者に確認を行いながら計画の作成を行っている。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0	0	現在、児発の利用者がいない	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	0	1	現在、児発の利用者がいない	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	0	1	現在、児発の利用者がいない	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0	1	事前に活動を決めている現在、児発の利用者がいない	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	0	1	活動を事前に決めている活動内容を月に決めて、スタッフが交代制で考えている。	

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

討議年月日：令和 8年 3月 6日

公表：令和 8年 3月 28日

事業所名 アシスト1

	チェック項目	はい	いいえ	どちらでもない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	0	1	現在、児発の利用者がいない	
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5	0	1	打合せを行っている。	
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	1	1	次の日の打合せ時に行っている。	
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	0	0	業務日誌で記録に残している現在、児発の利用者がいない	
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0	0	現在、児発の利用者がいない	
	23 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0	0	現在、児発の利用者がいない	
	関係機関や保護者との連携	24 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0	1	現在、児発の利用者がいない
25 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。		5	0	1	現在、児発の利用者がいない	
26 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		5	0	1	同法人の児発の事業所と連携を図り申し込みを行っている。	
27 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		2	0	4		
28 (28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。		2	0	4		
29 地域の他質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。		2	0	4		
30 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。		4	0	2	現在、児発の利用者がいない	
31 (31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		2	1	3	現在、児発の利用者がいない	
32 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		6	0	0	定期的に面談を行なっている現在、児発の利用者がいない	
33 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。		4	0	2	現在、児発の利用者がいない	
34 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	0	0	契約時に説明をして、随時分からないことは、聞いてくださいと話している。		
35 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0	0	現在、児発の利用者がいない		

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

討議年月日：令和 8年 3月 6日

公表：令和 8年 3月28日

事業所名 アシストJ

	チェック項目	はい	いいえ	どちらでもない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明等	36 児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0	0	現在、児発の利用者がいない	
	37 「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6	0	0	現在、児発の利用者がいない	
	38 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4	0	2	現在、児発の利用者がいない	
	39 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	0	1	現在、児発の利用者がいない	
	40 こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0	0	インスタやホームページで紹介している	
	41 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	0	0	0		ホームページ上のブログやインスタ、Facebook、リタリコ発達ナビで、情報を発信している。
	42 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0	0		鍵のついた書庫で、保管をしている。また、建物自体も管理会社のセキュリティーが入っている。
	43 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0	1		
	44 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	0	2	クリスマス会などを運営。	
非常時の対応	45 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	0	0	クリスマス会などでは、地域の方に声をかけている。	
	46 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0	0	月に一度、避難訓練の実施	
	47 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	0	0	アセスメントシートで確認	
	48 食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	0	0		
	49 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	0	2		
	50 こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	0	0		
	51 ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0	1		
	52 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0	0		
	53 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6	0	0		

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表:令和 8年 3月28日

事業所名 アシスト I

保護者等数(児童数) 0名 回収数 0件 割合 0%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	① こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	0	0	0	0		
	② 職員の配置数は適切であると思いますか。	0	0	0	0		
	③ 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境（※1）になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	0	0	0	0		
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	0	0	0	0		
適切な 支援の 提供	⑤ こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	0	0	0	0		
	⑥ 事業所が公表している支援プログラム（※2）は、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	0	0	0	0		
	⑦ こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）（※3）が作成されていると思いますか。	0	0	0	0		
	⑧ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	0	0	0	0		
	⑨ 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	0	0	0	0		
	⑩ 事業所の活動プログラム（※4）が固定化されないよう工夫されていると思いますか。	0	0	0	0		
	⑪ 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	0	0	0	0		
	⑫ 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	0	0	0	0		
	⑬ 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	0	0	0	0		

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
保護者への説明等	⑭ 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング ※5)等や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	0	0	0	0		
	⑮ 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	0	0	0	0		
	⑯ 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	0	0	0	0		
	⑰ 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	0	0	0	0		
	⑱ 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	0	0	0	0		
	⑲ こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こども	0	0	0	0		
	⑳ こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	0	0	0	0		
非常時等の対応	㉑ 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	0	0	0	0		
	㉒ 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	0	0	0	0		
	㉓ 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	0	0	0	0		
	㉔ 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	0	0	0	0		
満足度	㉕ 事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	0	0	0	0		
	㉖ 事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	0	0	0	0		
	㉗ こどもは安心感をもって通所していますか。	0	0	0	0		
	㉘ こどもは通所を楽しみにしていますか。	0	0	0	0		
	㉙ 事業所の支援に満足していますか。	0	0	0	0		

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	アシスト		
○保護者評価実施期間	R 7年 4月 1日	～	R 8年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 0	(回答者数)	0
○従業者評価実施期間	R 7年 4月 1日	～	R 8年 4月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価作成日	R 8年 3月 6日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・事業所内に、専門職員の配置はないが、法人内の事業所に言語聴覚士が2名、公認心理師が3名いるため、困ったことなどがあれば、すぐに相談できる環境にあります。	・困ったことがあれば、すぐに相談ができる環境があり、利用者のことを見てもらい、どのように支援を行っていくか相談ができる環境にあります。専門的知識を取り入れての支援を行うことができます。	・直接支援のほか、専門職員が事業所内研修を実施することで、スタッフの理解を深め、相談しやすい雰囲気を作っていきます。 ・事業所内で困ったことがあれば、実際に利用者の様子を見て頂き、支援の方法を専門的知識のもと、本児にあった支援方法を模索し、実施を行っていきます。
2	・法人の事業所がすべて、中川区にあります。年齢ごとに分かれており、年齢の近いお子さんでの関わりを重視しております。未就学の事業所・小学生中心の事業所・中高生中心の事業所に分かれています。	・年齢ごとに分かれているため、体格差がないため、安心してお預かりすることができます。また、避難訓練や、クリスマス会等で法人内の事業所と関わることができます。また、1階には、B型の事業所があり、働くことの意識を持つことができます。	・年齢が近いことにより、自然とコミュニケーションを学び、社会性をはぐくむことができます。 ・同年齢のお友達と同じように活動に参加することで、自分にもできることがあると実感し、自信につながります。 ・異なる個性を持つ子ども達と触れ合うことで、多様性を理解し、尊重する心をはぐくむことができます。みんなが一緒に楽しく学び、成長できる環境をこれからも作っていきます。
3	・運動療育にも力を入れています。ライフキネティックを支援プログラムに入れています。	・ライフキネティックの支援プログラムを活用することで、脳内のネットワークを大きく改善し、シナプスの形成を促す効果も期待できます。 また、視覚や聴覚に関するトレーニングも多く含まれており、見たり聞いたりし、判断して、動くという一連の動作の改善と、「見る」「聞く」という機能の改善も期待できます。	・プログラムの内容をより多様化し、興味関心を引き出していきます。また、法人内の事業所と連携を図り、支援プログラムのアイデアを出して、支援を行った発表を行っていく。 ・できなくても、やることに意義があることをしっかりと伝えて、できたことも大切だが、それに向き合った姿勢をしっかりと褒めて伸ばしていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・異年齢交流や、障害のない方との交流が少ない。	・年齢別に分かれていることは利点でもあるが、異年齢の子との関わりが少ないため、上の子が下の子の面倒を見る力を養っていくことが弱い。また、障害のない方との交流が少ない。多様化の時代ではあるが、それを認めて、関わりを持つことが少ない。	・地域のイベントやボランティア活動に積極的に参加することで、様々な年齢層の方や背景を持つ人と出会う機会を増やしていきます。 ・世代間交流や障がい者と障害を持っていない方との交流を目的としてイベントを定期的に開催することで、自然な出会いの場を設けて行きます。
2	・事業所の延べ床面積については法令上の基準は満たしているものの、粗大運動など身体を大きく動かす活動を行う際には、室内スペースが十分とは言えない場面がある。そのため、活動内容によっては空間の使い方に工夫が必要となる点が課題として挙げられる。	事業所の構造上、活動スペースが限られていることに加え、小学生を対象とした活動の中では身体を大きく動かす遊びや運動を取り入れる機会も多いため、活動内容によっては室内スペースが狭く感じられることがあることが要因として考えられる。	室内活動では安全面に配慮しながら活動内容や人数、スペースの使い方を工夫するとともに、近隣の公園や屋外スペースを活用することで、児童が身体を十分に動かすことができる機会を確保していく。また、活動内容の工夫や時間帯の調整などを行いながら、限られた空間でも安全かつ効果的な支援が行えるよう取り組んでいく。
3			

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 8年 3月 6日

公表:令和8年 3月 28日

	チェック項目	はい	いいえ	どちらでもない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援等のスペースとの関係で適切であるか。	6	0	0	法律上、適切だが、ボール遊びをしたいとかになると、狭い。	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	0	0	法律上、配置は適切だが、子どもたちがやりたいことが多いと、スタッフが、細かく支援できないこともある。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	0	1	お部屋を分けることができる。また、防音室があり、大きな声を出しても平気。	建物が2階で階段があるため、肢体不自由児や車椅子への対応が課題だと思う。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	0	0	身体を思い切り動かしたいときには、部屋が狭い。天気の良いときには、公園などで遊んでいる。	元気に遊びたい子。ゆっくりしたい子がいると、遊びの空間を分けて対応をしている。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	0	0	0 部屋を使って、小集団に分かれて作業ができています。	部屋が3部屋あり、デイ1、デイ2と防音室。遊びに応じて部屋を活用している。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4	0	2	2 会議で話し合い、一緒に考えている。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	1	1 改善できる所は、改善している。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	0	0 打ち合わせや会議などで話し合いの場を設けている	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	2	1	1 外部評価は現在、行っていない。	今後、第三者による外部評価につなげられるよう体制を整えていきたい。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0	0	0 毎月研修を行なっている月に一度、研修会を行っている。	月に1度、研修会を行い、質の向上につ努めている。
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0	0	0 ホームページやすてっぷサポートで公表している。	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6	0	0	0 現在のご家庭での困りごと等を聞いて計画に盛り込んでいる。	面談時に聞き取りを行い、計画に反映している。
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0	0	0 会議の場で話し合っている会議で話し合う場を設けている	
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	0	0	0 会議の場で話し合っている計画に合わせて活動内容を考えている。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	0	1	1 法人独自のツールを活用している。	必要に応じて、アセスメントツールのの見直しも行っていきたい。
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のわらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0	1	1	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	0	1	1 みんなで考えている。	活動内容をスタッフで割り振りして考え、どのように行うか話し合っている。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0	0	0 マンネリ化しないように活動を考えている。	
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5	0	1	1 活動が通して、行なっている子どもの状況に応じて、活動を考えている。	活動は集団で行い、障害程度に合わせて、個別に行っている。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 8年 3月 6日

公表:令和8年 3月 28日

	チェック項目	はい	いいえ	どちらでもない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	20	5	0	1	どのような活動をするか、スタッフや子どもの配置を話し合っている。	利用者が来る前の時間に打合せを行い、どこの部分に気を付けるのか話し合っている。
	21	5	0	1	翌日に打ち合わせの時間を設けて、話し合いをしている次の日の打合せ時に行っている。	翌日の打合せ時に、振り返りを行い話をしている。
	22	6	0	0	業務日誌を記入している変化があれば記録を取っている。	
	23	6	0	0	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	
	24	6	0	0	社会資源を活用して、いろいろな場所へお出かけし、体験している。	
	25	6	0	0	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	選択が難しい子には、2つぐらいから視覚支援で選択ができるように支援をしている。
関係機関や保護者との連携	26	6	0	0		
	27	5	0	1	なかなか医師と繋がるのが少ない。保護者を通じて話を聞いている。	医師とのつながりが少ないため、今後、つながっていくことができるようにしていく。
	28	6	0	0	引き渡しの時に、様子を聞いている分からないことや変更の場合には保護者と連絡を取っている。	
	29	4	0	2	情報提供を行っている。	法人内の事業所と話し合いの場を設けている。
	30	4	1	1	小学生を対象としたデイサービスのため、卒業生が少ない。	高校を卒業して福祉サービスを利用する利用者がいないのが現状である。今後は、必要に応じて、移行の場合には情報提供を行っていききたい。
	31	4	0	2	必要に応じて研修を受けている。	研修の時間が合わないこともあるが、できるだけ参加ができるように今後、努力していきたい。
	32	3	0	3	公園などで地域の子と一緒に遊ぶことはある。	地域のお子さんと一緒に活動することが難しい。クリスマス会などに今後も誘っていききたい。
	33	3	0	3		
	34	6	0	0	変わったことなどがあれば連絡帳や電話をして情報を共有している。	面談時や困ったことがあれば、連絡をいただき、一緒に解決方法を模索している。
	35	3	0	3	参加者を増やすのが課題だと思う。研修などの案内はできていない。	保護者の方も共働き家庭が多く、なかなか時間のタイミンクが合わないため、個別の相談に留まっている。
	36	6	0	0		
	37	6	0	0		
	38	6	0	0		

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 8年 3月 6日

公表:令和8年 3月 28日

	チェック項目	はい	いいえ	どちらでもない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明等	39 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0	1		懇談時や、困ったことがあれば、電話等で相談に応じている。
	40 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	0	2	クリスマス会など、親子で参加できる内容を行っている。	クリスマス会で保護者も交流をしていただいている。
	41 こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0	0	解決できるようにスタッフで話し合い、法人への報告も行っている。	
	42 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	0	0	インスタで紹介しているインスタグラムやホームページで発信している。	
	43 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0	0	鍵がついているロッカーにしまっているデジで撮影した写真等の取り扱いについては保護者の方に同意書を記入していただき、それを順守する。しっかり契約書を結んでいる子ども達との会話の中でも、これは個人情報だから簡単に人にお話ししないようにね、などと意識付けをしている。書庫にしっかりと入れて管理している。	
	44 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0	0	クリスマス会には地域に声をかけている。	
45 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	0	2		事業所行事に声をかけさせていただいている。今後も、声掛けをしていきたい。	
非常時等の対応	46 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	0	0		
	47 業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	0	1		月1回の避難訓練では、事業所ごとと法人ごとに分かれて、訓練を行っている。
	48 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	0	0		
	49 食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	0	2	保護者を介している。	保護者の方へ聞き取りを行い、アレルギーのある方は、除去したものを提供をしている。
	50 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0	0		
	51 こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	0	0		
	52 ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	0	0		
	53 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0	0		
54 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6	0	0			

保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表:令和 8年 3月 28日

事業所名 アシスト I

保護者等数(児童数)38名 回収数16件 割合42.1%

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	13	0	0	3	分からない。 勉強するスペースもちゃんとあるから 気が散りにくい。	
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	13	0	0	3	分からない	基本的な人員は、管理者兼児発管1 名・児童指導員1名・保育士2名・理 学療法士1名・指導員2名となってお ります。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境（※1）になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	14	1	0	1	分からない	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	14	0	1	1	分からない	
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	13	2	0	1	分からない相談があるときなど助言や 周知してくれる。 若いスタッフに不安を感じる	スタッフ育成（研修や指導）をしつ かりと行っていきます。
	6 事業所が公表している支援プログラム（※2）は、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	10	1	0	5	分からない。 はっきりはわかりません。 特になしなしわからない。 行った日などの活動を紙でお知らせして 頂いたり、帰り際に様子を聞いたり 楽しい活動など定期的に開催して頂 いて喜んでおります。 そうだと思います 支援プログラムをしらないです 毎回今日の支援内容はこれですなど というお知らせはとくにないのでよくわ かりません。 プログラムがよくわからない。 はい。 特に問題はありません。 合っていると思う。 なし。	支援プログラムと活動内容は、HP の載せております。
	7 こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）（※3）が作成されていると思いますか。	13	1	0	2	分からない。 わかりません。 特になし。 なし。はい。 人に合わせすぎてしまうなど、デイの 中での性格を知る事が出来た。 こちらの意見を踏まえた上で作成され ていると思います。 もう少し分析していただきたい。 家での困った行動などあればすぐに対 応してくれる。 連絡等も頂いており、支援についての 伝達した事のニーズに沿って支援して くれてます。 はい 特に問題はありません。 面談したうえで作成しています。 なし	今度もこどものことを十分に理解し、 ニーズをとらえて計画を作成してい きたいと思います。

保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表:令和 8年 3月 28日

事業所名 アシスト I

保護者等数(児童数)38名 回収数16件 割合42.1%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	12	1	0	3	分からない	
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	14	1	0	1	分からない	
	10 事業所の活動プログラム(※4)が固定化されないよう工夫されていると思いますか。	12	0	0	4	分からない	
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	4	1	2	9	分からない	・地域の子どもたちとの交流は、クリスマス会にお誘いしている程度でなかなかかわりを持つことができていない。
保護者への説明等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	14	1	0	1	分からない	
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	15	1	0	0		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング(※5)等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	5	3	3	5	分からない	事業所等での家族支援プログラムを提供ができるように努力していきます。また、研修会や情報提供の機会を設けていきます。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	15	1	0	0	毎回こんなことがあったよーなど送迎の際に伝えてくれる	事業所での様子を今後もお伝えしていきたい。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	11	3	1	1	分からない。 1年に1、2回あればよいと思います。 定期的にはではない。 なし。はい。面談して頂いてます。定期的に行われてると思います。 特になし。 定期的だけでなくその都度相談事あれば助言などしてくれる。 利用日の出来事の報告はありますが、何か子供の気分等でスムーズにいかない時やちょっとしたトラブル等があった時に、どういった対応、支援をされたのかももう少し、教えて頂けたら助かります。 はい。特に問題はありません。 話を聞いてくれたり、伝えてくれます。なし。	面談の定期的開催し、その他の困ったことがあれば、電話や面談等で一緒に解決方法を模索していきたいと思います。
17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	13	0	1	2	分からない家での気になる行動などあれば活動時も気にしてくれ、デイでの様子など教えてくれる	引き続き、事業所での様子をお伝えできるようにしていきます。	
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	7	3	3	3	分からない		

保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表:令和 8年 3月 28日

事業所名 アシスト I

保護者等数(児童数)38名 回収数16件 割合42.1%

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた 対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
	19	15	0	0	1		
	20	13	1	1	1		
	21	13	1	0	2		
	22	15	0	0	1		
非常時等の 対応	23	13	1	0	2		避難訓練は、月1回、事業所ごと・法人全体で行っている。
	24	16	0	0	0		
	25	12	0	0	4		
	26	13	0	0	3		事故等が起きた場合には、保護者の方に連絡を徹底していきたいと思います。
満足度	27	14	2	0	0		
	28	15	1	0	0		
	29	13	2	1	0		満足ができるように今後も支援に邁進していきたいと思います。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	アシスト		
○保護者評価実施期間	R 7年 4月 1日		~ R 8年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	R 7年 4月 1日		~ R 8年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	R 7年 3月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・運動療育にも力を入れています。ライフキネティックを支援プログラムに入れています。	・ライフキネティックの支援プログラムを活用することで、脳内のネットワークを大きく改善し、シナプスの形成を促す効果も期待できます。 また、視覚や聴覚に関するトレーニングも多く含まれており、見たり聞いたりし、判断して、動くという一連の動作の改善と、「見る」「聞く」という機能の改善も期待できます。	・プログラムの内容をより多様化し、興味関心を引き出していきます。また、法人内の事業所と連携を回り、支援プログラムのアイディアを出して、支援を行った発表を行っています。 ・できなくても、やることに意義があることをしっかりと伝えて、できたことも大切だが、それに向き合った姿勢をしっかりと褒めて伸ばしていきます。
2	理学療法士を配置しており、専門的な視点を取り入れた支援を行うことができます。また、専門職と職員間の情報共有や連携体制が整っており、児童一人ひとりの特性や発達状況に応じた支援を行うことができている。	理学療法士を含めた職員間で情報共有を行い、児童の身体面や発達面の状況を踏まえた支援内容の検討を行っている。	理学療法士をはじめとした専門職との連携をさらに深め、職員間での情報共有や支援方法の検討を継続していくことで、支援の質の向上を図っていく。
3	・法人の事業所がすべて、中川区にあります。年齢ごとに分かれており、年齢の近いお子さんでの関わりを重視しております。未就学の事業所・小学生中心の事業所・中学生中心の事業所に分かれています。	・年齢ごとに分かれているため、体格差がないため、安心してお預かりすることができます。また、遊戯訓練や、クリスマス会等で法人内の事業所と関わることができます。また、1階には、B型の事業所があり、働くことの意識を持つことができます。	・年齢が近いことにより、自然とコミュニケーションを学び、社会性をはぐくむことができます。 ・同年齢のお友達と同じように活動に参加することで、自分にもできることがあると実感し、自信につながります。 ・異なる個性を持つ子ども達と触れ合うことで、多様性を理解し、尊重する心をはぐくむことができます。みんなが一緒に楽しく学び、成長できる環境をこれからも作っていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・異年齢交流や、障害のない方との交流が少ない。	・年齢別に分かれていることは利点でもあるが、異年齢の子との関わりが少ないため、上の子が下の子の面倒を見る力を養っていくことが弱い。また、障害のない方との交流が少ない。多様化の時代ではあるが、それを認めて、関わりを持つことが少ない。	・地域のイベントやボランティア活動に積極的に参加することで、様々な年齢層の方や背景を持つ人と出会う機会を増やしていきます。 ・世代間交流や障がい者と障害を持っていない方との交流を目的としてイベントを定期的で開催することで、自然な出会いの場を設けて行きます。
2	・事業所の延べ床面積については法令上の基準は満たしているものの、粗大運動など身体を大きく動かす活動を行う際には、室内スペースが十分とは言えない場面がある。そのため、活動内容によっては空間の使い方に工夫が必要となる点が課題として挙げられる。	事業所の構造上、活動スペースが限られていることに加え、小学生を対象とした活動の中では身体を大きく動かす遊びや運動を取り入れる機会も多いため、活動内容によっては室内スペースが狭く感じられることがあることが要因として考えられる。	室内活動では安全面に配慮しながら活動内容や人数、スペースの使い方を工夫するとともに、近隣の公園や屋外スペースを活用することで、児童が身体を十分に動かすことができる機会を確保していく。また、活動内容の工夫や時間帯の調整などを行いながら、限られた空間でも安全かつ効果的な支援が行えるよう取り組んでいく。
3			